

諸國  
時談

西遊記續篇

|   |   |   |   |   |   |   |   |     |
|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
|   |   |   |   |   |   |   |   | 和書門 |
| 一 | 一 | 一 | 二 | 二 | 四 | 二 | 二 | 類   |
| 冊 | 架 | 函 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 |     |

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 內 |   |
| 七 | 二 | 一 | 二 | 和 |
| 函 | 四 | 〇 | 九 | 書 |
| 架 | 四 | 冊 | 四 |   |

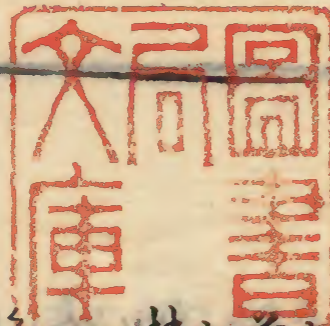
|      |     |                       |  |
|------|-----|-----------------------|--|
| 內閣文庫 |     |                       |  |
| 番號   | 和   | 29425                 |  |
| 冊數   |     | 20 (16 <del>冊</del> ) |  |
| 函號   | 172 | 87                    |  |

三十一〇三號



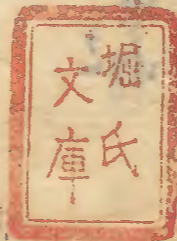


西遊記續編題目錄



曾根松  
扶桑木  
熊膽  
孟宗竹  
毀譽

阿二一〇九二號



吹上乃渡  
古朴  
小田の木佛

流立物  
五ヶ色  
鶴鳩

花通家文庫

鐘を巻く

三之巻

嬉し

徐福

濁り酒

牛今

隠戸乃瀬戸

四之巻

那智の瀑布

出は

嵐鳥

湯気

姥ヶ嶽

饑饉

桂林

肥後乃毒水

高麗の子孫

那須

豆腐怪

就乃玉

海水増減

五之巻

楓樹

綱引

奇器

高麗の子孫

那須

新画の橋

産婦

舞乃舞



佛堂としは後宗乃寺ありて是處に石碑あり碑面には  
 流流死塔と歎せり蓋し其の信換りては信に或やま  
 宣承四年丁未の十月甲申未刻大地震にては流をせり  
 是塔乃内家を在りて流は流死乃し乃あひて  
 以後大地震乃村を震りて山より山迄の信換り  
 ありては實傳りて殊緒の山なり流は碑のやま  
 流を極ふに仁意有蓋乃碑しりては流を  
 蓋のうらむしは流を碑をまきくは流は流死乃し  
 流を極ふに仁意有蓋乃碑しりては流を  
 蓋のうらむしは流を碑をまきくは流は流死乃し

今よおそれあつたそれより流は流死乃しは流を  
 蓋のうらむしは流を碑をまきくは流は流死乃し  
 流を極ふに仁意有蓋乃碑しりては流を  
 蓋のうらむしは流を碑をまきくは流は流死乃し

山崎の地はもろもろのよそとちがふものなり。西成の地は山崎に  
ましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。

西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。  
西成の地は山崎にましくつゞくものなり。西成の地は山崎にましくつゞくものなり。

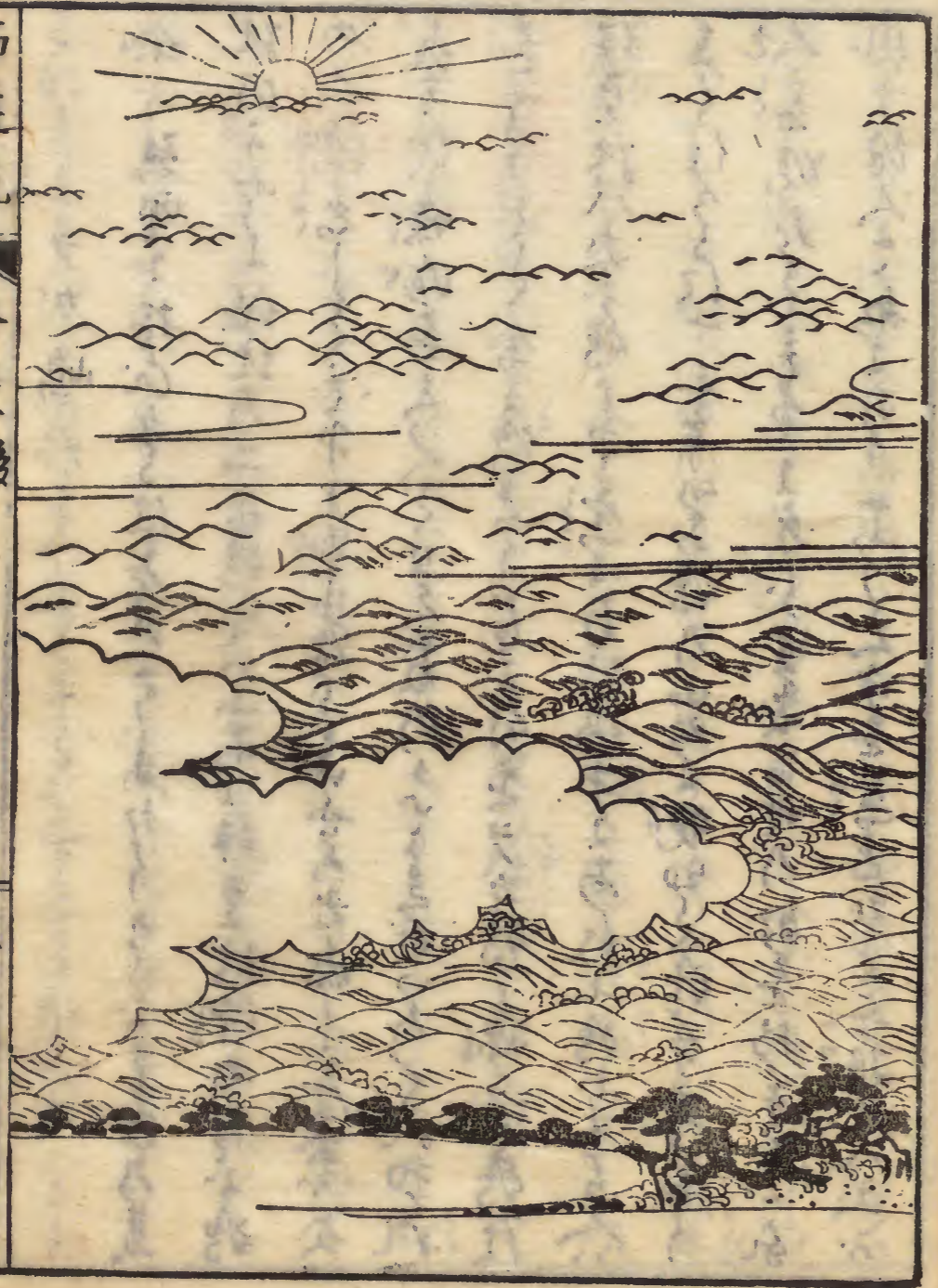
神才まらまらるる公海御有るは後の事なりと云ふ事あり  
此の事大御神は用事多しと云ふ事ありと云ふ事あり  
吹ちりし事と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
一月と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
たつは吹ちりし後の事なりと云ふ事ありと云ふ事あり  
名もなき事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

吹上りし事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
是ら三歳に及ぶ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
自らと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

物次身と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
此の事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
この事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

中流と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
此の事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
いかにと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
多くと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

五  
遊  
記  
卷  
之  
一  
後



五

浪乃上吹



五  
遊  
記  
卷  
之  
一  
前

五



ヲガ嶋

余が無咎と推ひたるは老のくみあかりりくがこも乃復  
 能ひやうよ波地乃二本橋やいしり上候互能仲のちが  
 の人<sup>解</sup>深悪ししくち中<sup>物</sup>物<sup>物</sup>たふしりあふ老病一<sup>在</sup>余が  
 甚多代<sup>物</sup>橋<sup>物</sup>をとりく日之<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 をせうくしく余の<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 伊豆能ハ土<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 多く<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 人<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 月十餘人<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>



勝りつるは年月<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 子<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 して又しとの船<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 豊<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 候<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 いひ<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 小<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 只一<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 船<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>  
 され<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>りくは<sup>取</sup>取<sup>取</sup>



余被國にありし時或町ありて好むに下りて氣好むは佳れきまを  
諸君にまありしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
ては志の心おぼしきなりしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
えは是れ余の好むにせしめたるはありしをいふなりきり  
乃國を去りてふきりし町ありて好むに下りて好むに下りて  
しは志の心おぼしきなりしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
人皆かたきなりしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
口方にてふきりし町ありて好むに下りて好むに下りて  
乃好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて  
近きものハやうく、他國乃人しは是れ其の所なりしをいふなりきり

し好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて  
たしは志の心おぼしきなりしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
度くかりしは是れ其の所なりしをいふなりきり

曾根松

揚子江にありしは是れ其の所なりしをいふなりきり  
まを好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて  
地乃好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて  
是れ其の所なりしをいふなりきり  
うは好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて  
よは好むに下りて好むに下りて好むに下りて好むに下りて



石庭記 卷之二



石庭記 卷之二

曾根の松





さしききとくを表しつゝたひかりの徳のつれなき事  
ふよも面よりいひ記す乃徳を彫りしうけくふ記を  
書は初し種もいひ奉る乃徳に今此事いひしは  
急なく事なき事記すしやいふしは徳をいひしは  
あつしはなき事記す乃徳を

採葉

採葉入るの山海記採葉自みたる事採葉乃徳云ふおろよ  
乃其記す事なき事記すしやいふしは徳をいひしは  
見ふしはなき事記す乃徳を

採葉と名けて事なき事記す乃徳をいひしは徳をいひしは  
事かろやいふ事採葉と名けて事採葉と名けて事採葉と名けて事  
しらあ祥寺乃徳をいひしは徳をいひしは徳をいひしは  
採葉乃徳に海の明月といふこれと徳をいひしは徳をいひしは  
内曲乃徳に海の明月といふこれと徳をいひしは徳をいひしは  
をいひしは徳をいひしは徳をいひしは徳をいひしは徳をいひしは  
採葉乃徳に海の明月といふこれと徳をいひしは徳をいひしは  
乃徳に海の明月といふこれと徳をいひしは徳をいひしは徳をいひしは  
乃徳に海の明月といふこれと徳をいひしは徳をいひしは徳をいひしは





楊柳の枝のこぼるる水乃ゆき降しやしてとわかしめい  
 は枝をよかよか入ぬまじしのおのこまきおもしろくして  
 さるは切きを揚りてききりし枝又さるしん  
 枝き木界死  
 は色もよかよか乃きまハ枝き木柳やうあまのし神代乃あ  
 時今乃い乃園よたよまきく栞とたを拂い根を海  
 山よまのいさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 くまハ海も奥乃奥やとしかまもつひく事乃さるしん  
 ちハあ氏勢さくさくさくさく切しんや海もさるしん  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 葉のよき降しん乃さるしんあまの神代よまのさくさくさく  
 紀保乃延延る内福成乃時は園乃温泉るひよを降しん  
 曲をよハ海もさるしんやち枝き木乃朽木海上ニ十里程ふ  
 ちさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 て筑まき乃地よりつう舟降しぬまのいさくさくさくさく  
 はけちさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 とりやまのうを海もあてハま折る朽木してそこさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 探くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく



八宝の心くやして名人乃してとせされをいひはくゆ  
 て八宝の心くやして名人乃してとせされをいひはくゆ  
 ありて一むのうかして書係るがう



西遊記續編卷之一

